



くじゅう花公園（大分地区会 岩尾 大輔）

低気圧・高気圧

八女市中心部から北に外れた、国道3号線の側に、北部九州最大の前方後円墳「岩戸山古墳」があります。約1500年前の古代九州の大豪族「筑紫君磐井」が築いたものです。

筑紫君磐井は、よくご存じのヤマト王権に対抗した古代史上の大事件「磐井の乱」の盟主です。この乱は、ヤマト王権が朝鮮半島出兵のための軍事的負担を強要したことに対する反乱とされていますが、最近では、ヤマト王権からの独立を目指した独立戦争であるという見解も出てきています。この古墳はヤマトの古墳と違い、ここだけに「別区」という大きな正方形の場所を持っています。ここで盗人を裁いたのだそうです。

また、古墳には埴輪がつきものですが、筑紫君一族の古墳には石人・石馬が並べられており、これらは国の重要文化財とされています。しかし、この石人・石馬は、ヤマト兵により、彼らの怒りからか、あるいは、怖れからか叩き壊されてしまっています。この手足を壊された石人・石馬は、隣の岩戸山歴史文化交流館に一部展示されています。

ここは、はるか古代に思いが馳せられる場所で、私たちは、この独立心に満ちた気概のある古代人の遺伝子を引き継いでいることを感じさせられるところです。一度お寄りください。心が癒されると思われます。

（筑後地区会 江崎 洋介）

くじゅう花公園は、標高820mの久住高原に位置する自然豊かな植物公園です。天気が良ければ、阿蘇五岳や日本百名山のくじゅう連山の絶景を一望でき、春はビオラ、夏はひまわり、秋はコスモスなど年間通じて500種類約500万本の花を楽しめます。

contents

第50回定期総会	2
記念講演会	4
次世代税理士&MJS 交流会	17
情報ネットワーク委員会	
会員のひろば	18
偏西風・編集後記	23

第50回 九州ミロク会計人会

定期総会

ご挨拶

九州ミロク会計人会
会長 笹田 毅



本日は九州ミロク会計人会第50回定期総会にご参加いただき、誠にありがとうございます。Webでご参加の皆様にも、心より御礼申し上げます。

まずは、本日の総会にご臨席いただきましたご来賓の皆様、そしてミロク情報サービスの皆様に厚く御礼申し上げます。遠方よりお越しいただき、誠にありがとうございました。

本会は、会員の皆様の長年にわたるご支援により、会員事務所数627、会員数667名と、東京会に次ぐ規模へと成長してまいりました。50回もの総会を重ねてこられたのは、ひとえに皆様のお力

添えの賜物です。

さて、50年前の1975年は、新幹線が岡山から博多まで開通し、初めて東京と博多が鉄道で結ばれた年でした。携帯電話もなく、駅には伝言板があり「いつものところで待つ」と書かれていた時代です。私自身、当時は大学で簿記・会計を学んでおりましたが、今ではAIが仕訳を行い、帳簿もソフトで自動作成される時代となりました。

この50年で大きな変化がありましたが、これからの10年はさらにスピードが増し、変革の波も高まることでしょう。我々九州ミロク会計会は、信頼される会計人として、その変化に的確に対応してまいります。

本日は104名の皆様にご参加いただきました。懇親会やゴルフなど交流の場も予定しております。どうぞごゆっくりお楽しみください。

今後とも、九州ミロク会計人会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総会

令和7年7月17日（木）午後3時15分から第50回定期総会が福岡市の西鉄グランドホテルにおいて開催された。

総会は吉住総務委員長の司会により始まり、物故会員の氏名が報告され、黙祷をささげご冥福を祈った。来賓の紹介が行われ、三井副会長の開会の辞、笹田会長の挨拶の後、議長選出に入り福岡地区会の武部道孝会員が選ばれた。議事録署名人には福岡地区会の鉄川さえ子会員と長崎地区会の今村茂雄会員が指名され、議案の審議に入った。

議案1 令和6年度事業報告及び承認について

議案2 令和6年度決算報告及び承認について

吉住総務委員長及び古賀財務委員長から事業報告及び決算報告について説明があり、柳武監事が監査報告を行った。審議の結果承認された。

議案3 令和7年度事業計画及び予算案承認について



吉住総務委員長及び古賀財務委員長が事業計画及び予算案を詳しく説明し、各委員長から事業計画について報告された。審議の結果承認された。

以上をもってすべての審議が終了した。

続いて来賓の丸山二也九州北部税理士会会長、福岡政弘南九州税理士会会長、是枝周樹株式会社ミロク情報サービス代表取締役社長より祝辞が述べられ、宮本副会長の閉会の辞により総会は無事終了した。

講演会

定期総会に先立ち記念講演会が開催された。講師に宗像大社宮司葦津敬之氏をお迎えし「世界遺産・宗像大社と宗像の未来」と題して講演をしていただいた。（記念講演会詳細は4ページ以下）



懇親会

定期総会終了後、別室において懇親パーティーが開催された。懇親会は成川福利厚生委員長の司会で始まり、岡村副会長が開会の挨拶を行った。来賓の植田卓ミロク会計人会連合会会長と鈴木正徳株式会社ミロク情報サービス取締役副会長が挨拶を行い、笹

田会長自ら乾杯の発声を行った。懇親パーティーには各地区会から自慢の日本酒が用意されたが、大変好評で、あっという間に全て空瓶になった。最後に来年の開催地の長谷広信筑後地区会会長が締めを行った。

（福岡地区会 空閑 秀樹）



ゴルフコンペ



定期総会の翌日、名門福岡カンツリークラブ和白コースにおいて、6組21名の参加で懇親ゴルフ大会が開催されました。当日はあいにくの雨模様でのスタートとなり、ハーフ終了直前から大雨となったため、成績はハーフのダブルペリアで計算されることとなりました。

私共の組はハーフで止めましたが、雨にも負けず18ホール回ったつわものグループも半数ほどありま

した。私の場合コロナ禍で会議等も少なくなり、消極的に始めたゴルフですが、すっかりその奥深さにハマリ、さらに、ゴルフの楽しみはプレイのみならず同伴者と会い、会話にあることに気付かされました。ゴルフ、麻雀、お酒の場では、その人の日常にはみられない性格が出るともいわれます。

MJSの石川さん、熊本地区会の甲斐先生、福岡地区会の吉住先生と同伴させていただき大変楽しいゴルフができましたし、お陰様で優勝という名誉までついてまいりました。



優勝した武部道孝会員

またの機会に皆様とラウンドできますことを楽しみにいたしております。

（福岡地区会 武部 道孝）

世界遺産・ 宗像大社と 宗像の未来

宗像大社宮司
あしづ たかゆき
葦津 敬之氏

※令和7年7月17日に開催された第50回定期総会の
記念講演を要約したものです。



はじめに

御紹介いただきました葦津と申します。宗像大社の宮司を仰せつかっております。

本日は「世界遺産・宗像大社と宗像の未来」というテーマで、約90分のお時間をいただいております。この本日のテーマが九州ミロク会計人会の趣旨に沿うのか分かりませんが、お話を進めさせていただきたいと存じます。

日本神話と宗像大社

まず、宗像の歴史についてです。

宗像大社というのは、日本神話の中に登場する古い古いお社でございます。

日本神話は、御承知のように「古事記」「日本書紀」に出てくるお話であります。「日本書紀」は日本で最古の歴史書とされており、今から約1300年前に編さんされています。いわゆる文字による記録ができるようになって最初にできた日本の歴史書が「日本書紀」となります。その日本書紀のできる少し前に「古事記」ができていますが、これらにはいろいろな位置づけがあるのです。古事記と日本書紀はほぼ同類ということで、両書は併記して並べられることになっています。

古事記がどのように作られたか、稗田阿礼という非常に記憶力のいい人がいて、その人の記憶しているものに基づいて書かれています。現代の私どもは、

そんな曖昧な記憶で書かれたものはいかなものかと思う人がたくさんいますが、実はこの記憶力というのも非常に優れている人がいます。今日は先輩たちがたくさんいらっしゃるようですので御存じかもしれませんが、小野田寛郎さんというフィリピンのルバング島から戦後日本に生還をされた方がいらっしゃいます。実は小野田さんは和歌山の神主の息子でいらっしゃいまして、私は生前、大変親しくお付き合いをさせていただきました。

小野田さん著作の「我が回想のルバング島」という本があります。ご本人が日本に戻ってこられて最初に書かれた本です。この本を読むとびっくりするんですが、何月何日に何をやっていたとか、そういう記録が中に綴られています。私はてっきり日誌をつけておられたのかなと思って、「日誌をつけてお



宗像大社 本殿

られたんですね」と聞きましたら本人から怒られまして、「日誌なんかつけていません」と。「そんな証拠に残るものはつけてないですよ」ということでありました。

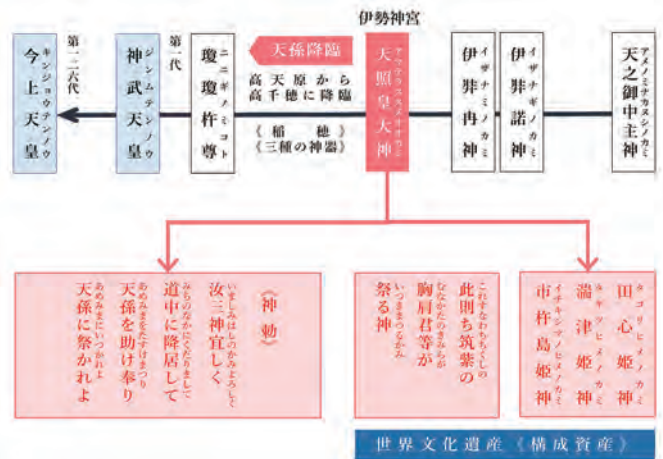
小野田さんは、陸軍中野学校という軍の特殊なところで訓練を受けられていますが、きっちりと頭の中に残すべきことが記憶・整理されていることに、私は驚いたわけであります。それと同時に、先ほどの稗田阿礼の話もそうですが、実は私どもは口伝から文字になって、現在は電子に移行していますが、記憶力を他に依存することによって記憶する力が低下しているんじゃないかと思っています。したがって、口伝は歴史の研究者の方でも賛否はあるんですが、精度が高いのではないかという考えもあり、日本神話の中における部分についてもかなり精度が高いのではと私は考えています。

宗像大社の成り立ち

日本神話は、最初にアメノミナカヌシノカミという神が誕生します。その後、いろいろな神様が誕生して、イザナギ、イザナミの神という男女の神様が誕生いたします。そこでさらにいろいろな神様が誕生する中で、アマテラスオオミカミという天皇の皇祖神が誕生いたします。そのアマテラスオオミカミがニニギノミコトに天孫降臨を命じて、神の世界から高千穂の地に降臨をします。その際、稲穂と三種の神器を授けて降臨をさせます。その後、三種の神器が神武天皇に引き継がれて、初代天皇が誕生しまして、現在の天皇は126代となっています。

そういう中で、アマテラスオオミカミの娘の三女神が宗像の地に降り立ちまして、宗像大社の御祭神の誕生になります。さらに御祭神の名前だけではなく、「此則ち筑紫の胸肩君等が祭る神」と記録が残されていますが、既に宗像の地元のことも明記をされていることが大きな特徴であります。

さらに、日本神話の中に登場するアマテラスオオミカミの命令を神勅と言いますが、宗像大社はこの神勅が下されている非常に希有な神社であります。通常は神勅はほとんどないですが、宗像大社には次のように神勅が下されています。すなわち「汝三神宜しく道中に降居して天孫を助け奉り天孫に祭かれよ」との御神勅であります。「天孫」というのは歴代天皇を指しますが、「宗像三女神、この宗像の地に降臨して、歴代天皇をお助けしなさい。そうすれば歴代天皇があなたたちを祭るでしょう」ということで、



最後の一文が非常にユニークであります。

昔から宗像大社はこのような位置づけになってまして、三つのお社から成っています。本土から約60キロの沖合に神の島沖ノ島があって、そこに長女、本土から約11キロ沖合に福岡県で一番大きな島の大島という島、そこに次女、それから宗像の地の本土に三女と、このような形で祭られています。

実は先ほどお話しました御神勅の最後の2行の言葉は宗像大社にとって極めて重要であり、これが宗像大社の核をなすと言って良いと思います。そういった意味で、このことを表わすところの扁額がそれぞれのお社にかけられています。

宗像の地の位置付け

では、この「天孫を助ける」と、歴代天皇を助けるとは何を意味するか。簡単に申しますと、宗像の地がこれまでどういう機能を果たしてきたかであり、日本が最初に開国をした場所と御理解をいただければ分かりやすいと思います。この宗像の地から朝鮮半島との行き来が始まります。それが後々、中国大陆へと伸びていって、最後にはマカオ辺りまで行き来をしています。この宗像の地が今で言う交易、通商、国防的機能を果たしていたと理解できるかと思います。

ただ、勝手に宗像族がこういうことをやっていたわけではなく、きちんと大和朝廷と連携をしていたことがみそでありまして、先ほどの歴代天皇を助けるとは、この3つの3本柱の機能を果たしていた。よって、この機能が果たされている間は歴代天皇が祭ったと理解できると思っています。これが宗像一族の海外交易の広がりですが、我々が思っている以上に、古代の人たちはかなり広範囲で動いていたということでもあります。



8万点に及ぶ国宝の数々

ご存知の方もいらっしゃるかも知れませんが、宗像大社には小さな粒状のものも入れて約8万点の国宝がございます。これらは全て神の島沖ノ島から出土されたものであります。これらがなぜ国宝になるのかといいますと、歴代天皇は宗像の神に対してささげ物をされていまして、その当時最高の技術の物がささげられているという訳です。結果として、出てきた物が全て国宝になっているということで、これらはまだほんの一部しか出してはいませんが、このような国宝が現在約8万点ございます。

もう一つ、これはよく講演とかでお話しをするのですが、我々、学校教育においては、日本というのは独自の文化も文明もほとんどなくて大陸からいろいろ教わったと学校教育で習っています。私も宗像に着任したときにはそのような頭で、宗像の歴史を一生懸命知ろうと思っていろいろな資料を読んだり、先生たちからお話を聞いたりして知識の整理をしました。

ただ、よくこのことについて冷静かつ慎重に考えてみますと、向こうから来たものも当然ありますが、逆に日本から大陸に渡ったものもいろいろとあって、また、双方で影響し合うということもあるのではないかと思います。宗像の歴史をひもとけばとくほど、確かに海外から来ているものもありますが、どうやら宗像から海外のほうへ伝わっていったものの方が多いのではないかとされるのです。そのほうが宗像の歴史をひもとくときに非常に頭が整理できるということです。

大陸国家と海洋国家

日本はいわゆる海洋国家ですが、中国に代表される大陸国家とは国境を争うわけですね。それで、と

にかくエネルギーは大陸の中で消費されます。島国である我が日本は大体安定をしておいて、余裕があれば海の向こうに行こうという動き、働きが出る。そのように両者を整理したほうが分かりやすいし、宗像の考古遺物についても説明がつくということです。

それからもう一つ、よく宗像一族は航海術にだけいていたと言われていました。果たして航海術だけでこれが整理できるか、多分それは無理だろうなと思っています。一方で、どれだけの船が造れたかがいまだに確実に検証されてはいません。

ただ、一つ言えるのは、玄界灘は荒海で、「灘」と名前がつくところは全て荒海なんです。玄界灘というのは三角波という非常に危ない波が立つ海です。水深が浅いせいで三角波は立つのですが、波というのは縦に立つ分には船を縦に切れば転覆することはないですが、三角波は前から後ろから横から斜めから波が来るので、船がすぐひっくり返るんですね。したがって、大陸に行くためには、この玄界灘をうまく抜けるためにこの三角波を避けながら抜けていく操縦術が必要であるというわけです。そういうことで、かなりの航海のための船が存在していたと思われます。そうでないと説明がつかないのです。

歴史上の海外からのいろいろな圧力を考えてみますと、日本が相当激しくやられた記録ではっきりするのはせいぜい元寇の後の辺りぐらいで、時代的にはかなり下がってきます。恐らくそれ以前は、日本にたどり着く前に船が難破をしたり、航海のためのいろいろな大変な工夫をしていたのではと思われます。

例えば考古学の先生たちは、この当時カヌーのような船で大陸へ渡っていたとおっしゃられますが、海の関係者と話をすると、「そんなもんで玄界灘は越

えられんぞ」とおっしゃいます。私もそう思いますし、きちんとした帆を立ててそれなりの構造船でないと、海外に行くのは無理でなかったかと思えます。

それから、かつて三重県で出土した構造船で考えますと、例えば、この船に船員を何名乗せたか、少なくとも 10 名、20 名という船員を乗せただけでも、その食料と水の量でも半端な量ではないと思われます。したがって、カヌーには乗せられない。そこにはかなり無理があるかと思われます。

なぜこうなったのか私なりに考えますと、遠洋の船と近海の船がごちゃ混ぜになったのかと思われます。つまり、伝馬船のような船は近海では使いますが、遠洋には行けませんので、その誤解でずれたのかなと理解しています。

宗像の国宝の数々

それから、次に宗像大社というと象徴的によく出てくる国宝の金の指輪についてです。この指輪は 6 世紀から約 7 世紀のものとされています。これを朝鮮半島から出てきた指輪と並べてみますと、この宗像沖ノ島の指輪は朝鮮製のものではないかと研究者の方がよくおっしゃられます。私が宗像大社に着任したときに関係者の先生方に、「この指輪については、朝鮮製である資料だと何か説明はできるのでしょうか」と申しましたら「日本ではこの当時作ることはいできない」とおっしゃられます。「なぜですか」と申しましたら「日本には技術がなかったから」と言われました。

ただ、私も宗像大社びいきではないですが、朝鮮製のものと二つを比較して客観的に見ても宗像の指輪の方がよくできているわけです。何でそんなに自国よりいい物を宗像に渡すんだと質問をしたりしました

が、そこは先生方となかなか意見が合わない面もありました。

ただ、技術がないというのも非常におかしな話で、これもその一つですが、例えば三角縁神獣鏡と言われる学校教科書に出てくる青銅鏡ですが、これも宗像からは 70 枚ほど出ております。これも外国製だと言うんですね。中国からもらったんだと言われていますが、中国から 1 枚も出土されていないのです。なのに先生方は中国製とおっしゃられる。それも僕はおかしいのではと思っていましたら、正に福岡から、紀元前 200 年頃の青銅鏡の型枠が出てきました。実は考古学会ではこれは非常に衝撃的なニュースでしたが、やっぱり日本で作っていたのではないかということです。

それから、6 世紀から 7 世紀頃、約 1300 年前から 1400 年前の辺りは我が国は技術的にどうであったかですが、例えば奈良の法隆寺は約 1400 年前の創建ですね。日本で最古の木造建築と言われています。かなりの建築技術で造られたのではと言われています。

一方で、それから約 100 年ほど下って伊勢神宮が 1300 年前に造られています。伊勢神宮は式年遷宮といって、20 年に 1 回既存の建物を壊して造り替えると同時に神様の服だとか数千点の御神宝類を造り替えています。だから、当時奈良を中心とした地域においては既にこれだけの技術があったということです。技術がなかったとされると、その説明が変なふうになるということです。

間違いのない事実だと思いますが、奈良の大和朝廷から天皇の命によりいろいろな品々が持ち込まれ、それが時を経て発掘をされたという解釈でいいかと思っています。

それから、つい最近、これはマスコミのニュースで流れましたが、国宝金銅製矛鞘が宗像の神宝館にございまして、たまたま研究所に預けてエックス線を当てたんです。そしたらとんでもないものが出てきて、中に矛が入っていますが、そこに「矛に施された類例のない象眼」とあります。象眼というのは、剣の部分にいろいろな彫り物を入れて金の細い物を埋めていきますが、こういうものが発見されました。細かく言うと、複雑な文様の物があり、この文様の穴には全て金が入っている物が発見されました。

実はこの発見というのは、学芸員によると東アジアの中において唯一のものであると言っておられますが、どうやら世界初であります。これをこれからどうしようか今、学芸員と話しているのは、これの



沖ノ島と朝鮮半島の金製指輪

中身はなかなか見ることができないが、復元品を作って、それを皆様にお披露目するのはどうかと、現在、その作業に入っています。

宗像大社の世界遺産への道

本日のテーマの世界遺産ということですが、実は宗像大社は『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』という名称で世界遺産の構成資産になっています。三姫神が鎮む島二つと本土、それから、それを支えてきた地元豪族の古墳、大きくはこの四つのものによって世界遺産が構成されています。日本神話の中に出てくる宗像三女神と、これを祭った地元の豪族の古墳で構成をされているのが宗像の世界遺産です。

世界遺産への道は、実は大変な状況からスタートしました。まず、「ICOMOS」という世界遺産選定のための研究者の組織があって、これは主に考古学の関係者が中心に構成されていますが、まず1次審査で、はじめは沖ノ島以外は駄目だと、例えばテストでいうとほぼ零点の状態にありました。そういう中で、何とかこれをひっくり返せないかと、1次審査では文化庁を中心に研究者と推薦書を作るわけですが、なかなかこの推薦書が専門的過ぎて、私も読んでいてよく分からないのです。

当時、福岡県の知事は小川さんという方でしたが、小川さんは英文のほうを読んで、「ちょっと宮司、読んでもよう分かんよ」と、「ですよね」というような話で、私が「もしよろしければ、A4、1枚で小川知事の名前でレポートを作るんで、それを表紙についたら如何でしょうか」と話をしたんです。知事が「じゃあ、やってみよう」とおっしゃられました。関係者に断固拒否をされて、そのままになりました。関係者の人達にしてみれば数年かけて作ってきた推

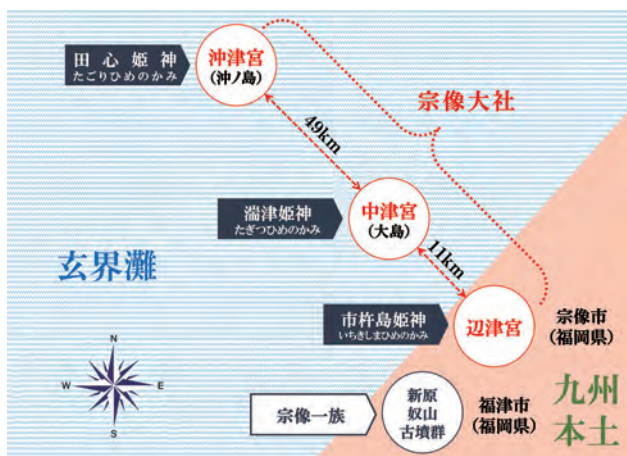
薦書ですから、それなりのプライドもあったでしょうが、それが駄目だったのです。

第2ステージは、実は「UNESCO」には21か国の大使がいて、大使たちが表決権を持っていて、審査をそこにかけられるということで、担当の役所が今度は文化庁から外務省へと移ります。その際、首相官邸から、とにかくこれまでのことをひっくり返せという強い指令が外務省に出まして、外務省の人と直接交渉することになりました。その際に、先生たちはとにかくもう今までの推薦書では役に立たないのでこれを捨てて、この難しい宗像の歴史をどうやってもう一回説明するかといろいろお考えだったんです。この際、これまでのことは一旦もう捨てませんかということです。今後は、逆に世界に通用するキーワードで勝負したらどうでしょうかと、スピリチュアル、エコロジー、アニミズムという三つのキーワードが引き出されました。

スピリチュアルだとかアニミズムは神道の一つの根幹をなす原点の部分でもあります。エコロジーは、後ほどお話ししますが、それまで宗像において海の再生事業をやっていたものですから、それを入れたということです。たまたまですが、これは後で気がついたことですが、頭文字を取ったら「SEA」一海になっていたと。これは偶然ですが、これをもって説明をしていきました。

実はアニミズム文化は、いろいろな一神教の宗教が誕生する以前には世界中にあった宗教の一つ、いわゆる原始宗教と言われます。当然ユネスコの21か国の大使にはアフリカの大使だとかいろいろな国の大使がいらっしゃって、「なんだ葦津、アニミズムだったのか」と、「だったらよく分かるよ」と、それで一気に距離が詰まって、結果として、21か国のすべての大使が全員賛成をしてくれて、宗像が見事世界遺産になりました。

なぜスピリチュアルとかアニミズムの言葉を使ったか、宗像大社には上段の部分、これは本土にありますが、高宮という社殿のない木を中心にした祭場があります。それから、神の島沖ノ島には、実は磐座といって岩を中心にした祭場が残っています。これは神道の一つの原型ですが、神社には、今、一般にお社がありますが、お社は仏教が伝来をして、仏教の影響で出てきて造られていきます。したがって、今でもそうですが、お寺と神社双方の区別がつきにくいのはそういうところにあるのですが、宗像の場合はこの原型の形があったので、こういうキーワードを必然的に導き出しました。



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群《構成資産》

沖ノ島

世界遺産 神宿る島



宗像大社沖津宮「沖ノ島」

沖ノ島について

先程申したように、沖ノ島にはいろいろな磐座が存在します。実はこういう磐座は日本だけではなく、外国にも似通ったものが今でも残っているところが幾つかあります。したがって、これは、外国の大使に御納得いただけるのではないかとということで、この磐座をプレゼンの表に出しました。

沖ノ島の磐座は、島で実際にご覧になるとかなり大きな岩であります。沖ノ島には本殿がありますが、その後ろが磐座になっています。見上げるような大きな岩です。沖ノ島というのは岩盤でできた島ですが、それらが本殿近くに転がっていて実に微妙なバランスで集中しているのがこの本殿の祭場になります。非常に不思議な空間の中にあります。

沖ノ島は、島を中心に50キロ圏内には島がないので、海上にぽつんとある島です。当然、島内は光もほとんどないので星もきれいに見える島です。ここには10日交代で宗像大社の神主が必ず一人詰めています。神様のお世話をするということで詰めている島です。

ところで自然崇拝と言われるアニミズムはどういうものかということ、あらゆるものに神様がいるという考え方です。これが一つの自然崇拝の考え方です

が、これは神社だけではなくて海外にもかつて同じようなものがありました。例えて申しますと、アメリカにおいてはネイティブアメリカンの宗教だとか、オーストラリアにおいてはアボリジニの宗教だとか、それからヨーロッパにおいてはケルト文化等々、その辺が根っこは一緒であります。したがって、そういう人たちは価値観が共有できる、これが日本の神社一般の大きな特徴であります。

先ほどのエコロジーについてですが、なぜ環境問題に取り組むようになったのかであります。

私が宗像大社に着任したのが12年ほど前、実は私は子供の頃まで宗像で育っていますが、三十数年ぶりに宗像の地に戻って来ましたら、地元の漁師さんたちが、海がおかしいおかしいと言うんです。風景は何も変わらないのに何がおかしいんだろうなと思っていました。東京に長いこといまして既に環境問題のことをやっていたので少しは予備知識はあったつもりですが、よもやまさか宗像の海がおかしくなっていると思っていませんでした。調べてみると確におかしい状況にあって、御多分に漏れず、宗像の海の海水温度が上昇していて、磯焼け、漁獲が減少して海洋ごみがたくさん押し寄せていると、マスコミが報じている教科書どおりの状況にありました。

当時は、私どもは世界遺産に向けて準備をしてい

ましたので、こういう負の部分は実のところ言いたくないわけです。けれども、当時の市長と話をしまして、このことを表に出しませんかと市長を説得しました。そして市長が大英断をしてくれました。

日本人は、まずいことは隠そうとするのですが、国際社会で勝負する際は表に出した方が良いでしょうと申しました。ただし、ひどい、ひどいじゃ話にならない、それに対する対策をどう打っているかが非常に重要なことなので、その取り組みをしましょうと市長が英断を下してくれました。このことがかなり世界遺産のときには有効であったというか、UNESCOの評価は、世界にはいろいろな世界遺産がありますが、周辺のバッファゾーンの環境の再生をやっているのは一つもない。宗像というのはい例になると、かなりの大きな成果を上げたということです。

宗像国際環境会議の立ち上げ

実は平成26年、2014年に宗像国際環境会議を立ち上げました。この組織では、年に1回大きな国際会議をやりまして、海の再生事業、それから育成プログラム等々の活動を現在も続けています。今年で12年目を迎えています。

過去、この会議ではいろいろなテーマを取り上げています。第6回目から「常若」というキーワードを全部つけています。これは静岡県川勝知事、この方はもともと学者ですが、知事になる前から交流をさせていただいており、川勝さんから「常若」という言葉を使ってこの会議をしたらいいとアドバイスをいただきました。「常若」という言葉は実は新しい造語で、これを定義づける意味でも良いじゃないか、では、このキーワードでやろうと「常若」を使い始めています。

「常若」って何なんだとよく聞かれますが、女性とかは「若くあり続けるということか」などと言われますが、人は一人の例外もなくみんな死にますと、つまり命をつなぐことが一つの大きな柱ではないでしょうか、ということです。このことについてみんなで議論を深めながら、この「常若」という言葉を追求しているのがこの宗像国際環境会議であります。

宗像の海の大きな特徴は、先ほど三角波の話をしました。宗像の海である玄界灘は水深がかなり浅いのです。平均水深がただか五、六十メートルしかございません。したがって三角波が立つわけです

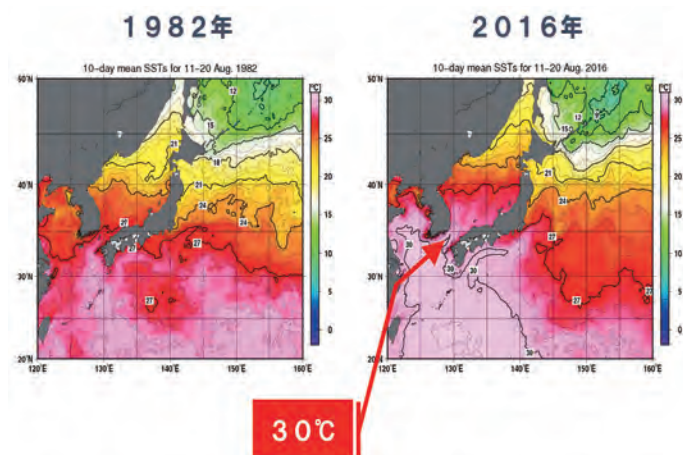
が、一方で、温度が上がると海面の温度も一気に上がるといった特徴があります。

それから、宗像という土地が大陸に近いこともあって、大陸からいろいろなごみが流れ込んでくる立地条件にあります。いわゆる環境問題の指標を取るというか、環境が少しでも乱れると一気にその変化だとか形に表れるのがこの玄界灘だと理解していただいて結構かと思います。

私が宗像に帰ってきました「ああ」と思ったのは、2016年の海面水温であります。既に30度ありました。当然、今はもう30度をはるかに超えています。神の島沖ノ島に渡るときには海の中に入ってみそぎをしないとはいけませんが、私がこの地に来出した頃は海に入るとまだ若干冷やっとなりましたが、今、海水はぬるい状態にあります。さらに、沖ノ島の海藻もほぼなくなっており、また南方系の魚がいっぱいいて、海の下に水中カメラを入れるとサンゴだらけです。今、宗像の海はそういう状況にあります。

ちょうど世界遺産になった年でありましたが、朝倉地方に線状降水帯が襲いました。当時、この線状降水帯は何なのかよく分からない状態でした。世界遺産の会議のためにポーランドに小川知事と一緒に飛行機に乗って行ったのですが、知事のほうに被害状況の連絡が入り、どうも大変なことになっているらしいとなりまして、知事はそのまま福岡に戻られたわけです。我々も朝倉で何が起きているのか全然分からなかったんですが、その時朝倉地方に相当の雨が降ったとのことでした。こういうことは一時的なことであるかなと思いきや、今も日本各地を毎年のように線状降水帯が襲ってきています。

やはりこれらの災害は海水温度の上昇がかなり影響しているのではとされています。当然、海の海水温度があれだけ上がれば水蒸気も上がるし、雨雲



宗像(玄界灘)8月中旬 海面水温

もできるし、海は温かくなれば冷やそうとするでしょうからこういうことが起こっても当然なのですが、こういう状況が頻繁に起こるようになったのが今の状況下であります。

それから、私も森を中心とした環境問題は長いことやっていましたが、宗像に来てからは、私の親しい仲間の連中には、「もう俺、森の方から海の方に改宗したから」と言っているんです。

当たり前に考えればわかることですが、陸地って3割、7割は海なんですね。海が異常な状況になれば陸地もかなりの影響を受けるのは当たり前のことですが、これが意外と都会にいと分かりにくい、田舎にいれば何となく分かってくるとは思うのですが、ただ、海が正常であれば、海というのは化石燃料も何も使わずにいろいろな産物を生んでくれる、やはり何とかしてこの海を取り戻すことが、私は今、重要なことではないかと心から思っています。

毎年の宗像国際環境会議には、各分野から講師の方が大体五、六十人程おいでになります。官界から、スタートアップの企業、それから学者の先生等、もろもろおいでになられます。また海外からもいらっしゃいます。ただし、どんな偉い方が来ても15分しかしゃべらせないというルールがございます。例えば3人のスピーカーを立てて、コメンテーターを入れて約1時間です。Youtubeにアップするために編集しなくていいように15分しかしゃべらせないと、このような形で会議を進めております。

宗像の海の今後の浄化への取り組み

それから、ご承知のように昨年能登地方で大変な地震がありました。実は宗像においては最低3年間は能登への義捐活動が続けようと、漁業組合長と義捐活動が続けています。これはなぜか、実は450年前に宗像の人たちが輪島に移住をしているのです。エンジンのない時代に、実は宗像の人たちは輪島まで漁に既に出ていました。

宗像が発祥の地と言われていますが、実は女性の海女という技法は宗像から全国に伝播したと言われています。当然、輪島にもその技法が伝わっていき、本家の宗像は今、女性海女は3人しかいませんが、輪島の方には約200名ほどいらっしゃいます。実は今でも輪島の一部のエリアにおいては宗像弁が残っていき、とにかく他人事ではないので、このような支援活動もやっています。

それから、ここ近年は毎年のことですが、宗像宣



輪島市海士町義捐金

言をつくって環境大臣にお持ちしています。今年の宗像国際環境会議ではこのようなことが議論され、これからこのような方向に向かうべきではないかと、提案を大臣のほうに毎回提出をしています。

それから、育成プログラムといいまして、子供たちをいかに教育というか、子供たちに環境のことを知ってもらおうかと、育成プログラムを組織立ち上げの草創期から一緒にプログラムに入れています。地元の中高生を中心に、有名な講師の先生がたくさんいらっしゃいますので、その方々にも講師になってもらったり、いろいろなイベントを行いながら子供たちにもこのことを伝える作業も同時にやっています。

それから、ただ集まって議論をしても意味がないので、実践活動をやっています。まずはビーチクリーン運動です。福岡は、今、ビーチクリーンがスポーツみたいになっていたりしていますけど、これは本当におかしな話で、本来はごみを捨てなければこういうことは起こらないんですが、とにかく取っても取っても宗像はごみがすぐいっぱいになります。1日ちょっと取っただけでもとんでもない量になるんですが、翌日また同じぐらいの量が集ってくるというわけです。現在はこの繰り返しです。

それからもう一つは、竹漁礁づくり。これは地元の福岡水産高校の子供たちがやっていたのですが、どこもそうだと思いますが、里山で竹やぶが竹害によって大変な状況になっている。その竹を刈り取って魚礁を作って海に沈めていたんです。その際に重しとなる部分に鉄を置いて沈めていたのですが、鉄を海に沈めることによって藻場が形成されます。一石二鳥の方法で、我々は高校生に指導をしてもらいながら、この活動を続けています。



ビーチクリーン



稚魚放流

宗像豊饒祭の取り組み

難しい話ばかりでは楽しくないので、各種のイベントもいろいろと仕込みながらやっています。

例えば、豊饒祭といって稚魚の放流行事もやっています。天皇皇后両陛下が全国豊かな海づくり大会で福岡にいらっしゃったときに、その会場が宗像の地になったのですが、その際に、先ほど御説明しましたように、宗像というのは歴代天皇のためにいろいろ汗を流すようになっていました。そういう中において、天皇として宗像の地に入られたのはこの時が初めてだったんですね。地域住民もそのことを知っておりますので、天皇がいらっしゃるということは特別なことであるということで、そういう形でお迎えをしたわけですが、このことを忘れないようにお祭りをつくりました。これは宮司の私の権限でやりました。

お祭りをつくると後輩たちがやめられないんですよ。数百年は続くと思っています。豊かな海づくりの趣旨にのっとって豊饒祭、豊かな海で豊穰と言いますが、海のみならず山とか川だとか田畑も豊かになるようにというお祭りをしております。それと同時に、全国豊かな海づくり大会で来ていただきましたので、地元子供たちと一緒に稚魚の放流行事、それから、みんなで作った竹魚礁を海の中に沈めているわけです。

会議及び豊饒祭は、毎年日にちが決まっております。10月26、27、28日の3日間と、お祭りが10月29日ということになっています。今年の会議は、今、関係者で詰めておりますが、御関心のある方はホームページを開いていただいて、是非御参加をいただければと思っています。各界からかなり多くの方がいらっしゃいますし、3日間やっており、夜は

交流会をやるというのが毎年恒例になっています。参加者がみんなそれぞれの肩書を外して付き合いをいたしますので、本当に御関心があれば皆様方も是非御参加をいただければと思っています。

海洋ごみ処理への取り組み

先ほどごみの話をしましたが、神の島沖ノ島も、今や台風の後にはごみだらけとなっています。沖ノ島にごみが集まるとどう対応するか、地元の氏子の青年たちに声をかけて、船をチャーターして沖ノ島にごみを拾いに行きます。そしてごみは島では処分できませんから、ごみを船に乗せて持ち帰って焼却場へと持っていく作業をいたします。何とかなんのかとか、外国のごみもいっぱい来るじゃないかという人たちもいるのですが、もう漂着したものについてはこつこつとその地で処分をしようよと、やっています。

なぜかと申しますと、東北の震災の際に東北のごみがアメリカに流れ込んで、アメリカが我が国に金を出せと、日本国政府がそのコストを出したんです。私、何かそのときにものすごく違和感を感じたんです。したがって、中国だとか朝鮮半島からいろいろなごみが来るけれど、来たものはこつこつと拾って処理しようよと申しました。そのことがそのうち向こうにも伝わるだろうからと、私どもはごみ拾いというのはそういう趣旨でやっています。

それから、先ほどの竹魚礁を作る理由は、かつて山にフルボ酸と鉄があって、それが融合して川を伝わって海に流れ込んで藻場が形成をされていました。一方で、川がいろいろなコンクリートで固められたり、山からの栄養分が海に行かなくなったのでなかなか藻が育たなくなったので、私たちはこういう形

で、新日鐵さんの技術ですが、鉄分の入った溶融スラグを重しにして海に沈めています。竹魚礁そのものは、アオリイカの産卵のために卵を産みつけられたりいろいろするのですが、魚礁はいつか流れていきます。ただ、重しは残ります。残った重しが藻場を作ってくれるので、このような活動を10年以上続けています。

それから「常若」です。近年、SDGsという言葉がいろいろ世界中を巡っております。SDGsそのものも悪くないとは思いますが、我々「常若」はそこに文化文明論を入れて、もっと深いメッセージを出せないか、今、仲間たちと議論をしています。先ほどお話ししましたように、一つの核となるものは「命をつなぐ」ということになろうかと。ただ、この命も、人間の命ばかりじゃなくて、多様な生命をいかにしてつないでいくかがその本質ではないのかと現在はこのようなキーワードを皆で共有しながら議論をしています。

あともう一つ、サステナブルディベロップメント（持続可能な開発）というキーワードがあります。環境問題がひとつ世界的にいろいろ考えられるようになったきっかけでもあります。サステナブル（持続可能）という、この時間軸というのはあまり言われておりません。そういった中で、私どもは最低でも1000年だよということ、1000年先までもつシステム、循環系って何だろうと議論をよくしています。

海外においては、1000年の尺はなかなかないと思われませんが、日本においては結構あります。特に神社には1000年を超えるものはたくさんありますし、神社以外でも1000年を超えるものがたくさんあります。なぜ1000年続いているのかを追求していく中で、循環型の社会ができないかと、このようなものも議論の中心に据えています。



竹魚礁づくり

伊勢神宮の存在

これは一つの象徴的な例ですが、伊勢神宮は今の伊勢の地に2000年前に鎮座しております。2000年という時間軸は神社界においては決して古いものではなくて、比較的新しい時間軸になります。伊勢神宮に行かれた方は沢山いるかと思いますが、神社には普通、参道には木なんかありません。伊勢神宮は、みんな気づかずに歩いていますが、参道の真ん中に木々があります。それから、階段の途中に木がずばっと生えていたり、それから社殿の横に木なんかあるとか、それらの木々が大きくなると伊勢神宮は木を切らずに社殿を切ります。

これは先ほどのアニミズム文化につながるわけですが、本来であれば、合理的にやろうと思えばこういうものを切ればいいのですが、伊勢神宮は一切せずに、このようなやり方を守っています。特に外国の人たちを案内するときに、こういう話をすると非常に関心を持たれます。

環境問題というのは結構国際的な問題ともなっていますが、実はその一方でアニミズム的なことも見直されていて、なるほどと御納得をいただくことが多いんです。もし今度、伊勢神宮に行かれることがありましたらよくご覧になってください。社殿の周りを囲っている板塀という塀がありますが、板塀なんかは木に沿ってカットしてあります。こういう文化を持っている国はそうないんじゃないかと思います。伊勢神宮は、そういう意味で象徴的なところなのです。ぜひ一度行かれたときにはよく御覧をいただければと思います。

また伊勢神宮には、宮域林という森が大正時代につくられています。これはなぜつくられたかという、御承知のように江戸時代にお伊勢参りの人々が神宮に殺到して、全国の人たちが伊勢に詣でたわけです。その際、問題になったのは、当時は当然のことながら化石燃料がありませんから木を燃やして燃料にするわけですが、神宮の境内の木をかなり切り尽くしたんです。そのことにより、五十鈴川という伊勢にはきれいな清流の川があるのですが、その川が干上がってとんでもない状況になったのです。それで、大正時代に当時の東京大学の林学の先生たちが中心になり、伊勢神宮の用地内に森をつくろうと、主にヒノキの森をつくる計画を打ち立てます。

ヒノキは伊勢神宮の式年遷宮の建材でも使うものですから、大きなヒノキが必要になるのですが、当時200年伐期といいまして、200年間育てようと計



参道の木々



階段に聳え立つ木

画がなされます。既に 100 年を超えているのですが、前回の式年遷宮の際にも、その途中で出てくる間伐材が使われたりしています。間伐材が 100 年なんですよね。林業のことを御存じの方は大体 50 年といって、本来、50 年間育てて木を切るんですが、伊勢神宮は 200 年ということで、今や 100 年物の間伐材が出る森になっています。100 年物だからもう間伐材じゃないんじゃないかと僕らが言うのですが、伊勢神宮は間伐材と言ってくれと、今でも間伐材と言われています。

200 年伐期にしたことによって現在、実は神宮の森は良い森になっています。林業の山は混交林と言います。針葉樹と落葉樹が入り交ざった森が最高の森と言われます。伊勢神宮の人工の森は、今、その混交林の本当にいい形の森になっています。

なぜかといいますと、大きく間伐をしていくんですね。当然、その中で木々同士の生存競争があって、これは 200 年育つなという木を残していくのですが、その際、間伐をどんどん続けるものですから森の中に光が入ってきます。日本の山はほとんどそうだとされますが、光が入ると落葉広葉樹がよきによきと出てきて、それが葉っぱを落とします。それがいい意味で土に栄養を与えて、針葉樹を育てる一つの肥料になります。そういう形ができていますのが伊勢の宮域林という森であります。

ご案内のように伊勢神宮においては、20 年に 1 度の式年遷宮があります。去年、天皇陛下の方から式年遷宮の準備に取りかかれと、現在、その準備に取り組まっていますが、まず、式年遷宮は木を切るところから始まります。三方切りといいまして、3 人の方々が斧で 3 か所切って切り倒して、切り終わった後は先っぽを取って株に挿します。それで木がまたそこに育つわけではないのですが、感謝の意を込めて、そういう作業を今でもしています。

伊勢というか、これは日本的な部分も含めてだと思いますが、やはり神が宿ると、神様の方にお礼を言う意味も込めて、こういう作業が今も続けられているのが伊勢の森の大きな特徴でもあります。

CO₂ の削減だとか、いろいろな機関が言っています。それも重要かもしれませんが、我々はそれよりも自然再生の事業が先じゃないかと環境省に対しても言い続けています。CO₂ を削減することは勿論いいことですが、それよりも先に壊した自然を戻すこと、これこそまさに公共事業ではないかと思っています。環境省にはそのように訴え続けています。なかなか効き目がないと思う人もいるかもしれませんが、自然が元に戻るには時間がかかりますので、これを積み重ねることによって、実は後でじわじわとジャブのように効いてくるのではと信じておりまして、私どもは宗像国際環境会議においては自然再生事業を何とか国の方でしてくれと言いつつ続けているところです。

つまり、私どもは「自然の摂理と生命の循環」、自然の摂理を取り戻して、そこに命の循環系ができるんじゃないかと、このようなことを訴え続けています。

明治神宮の宮域林

それから、約 100 年前であります、御承知のように明治神宮が造られました。明治神宮は内苑・外苑と大きく 2 か所に分かれています。明治神宮の森はそれ自体がお金をなかなか生めないだろうと、そのお金を生む機能を外苑の方につけて、そこから上がったお金を明治神宮の方に入れるというシステムが出来上がっています。これらの制度を作ったのが新一万円札の渋沢栄一さんであります。



明治神宮の森

ただ、外苑の方は何でもやって良いわけではなく、青少年のための場として収益が上がる施設をと、外苑においていただければお分かりになりますが、スポーツ施設とかそういうものが外苑には配置をされています。それはこの森をつくり育てるためにつくられた仕組みであります。

明治神宮の森も伊勢神宮の宮域林をつくった年とほぼ近いんですが、東大の林学の先生たちが英知を結集してつくられています。明治神宮の森は約70ヘクタールありますが、大都会の中にこれだけの森をつくっているんですね。もともとこの地は軍の練兵場の跡地だったのですが、よくこれだけのものをつくろうとしたと思います。当時の人たちは懐が大きいというか、ここに明治天皇を祭るんだと、100年前にこのような形がつくられています。

当時、いろいろな献木が全国各地から集められました。今、青年団というのがありますよね。その青年団ができる一つのきっかけになるのですが、全国各地の若者たちがそれぞれ各県の本を持参して明治神宮に植樹をしていって、この森がつくられています。

明治神宮の森は、伊勢神宮の宮域林とは全く真逆の木を切らない森で、落葉広葉樹なんかを中心とした森になっています。神宮の草創期はいろいろな閣僚の方々が、杉の木を植えろだとかヒノキを植えろだとか意見があったようですが、これに関わった本多静六さんとかその周辺の人たちがそこは頑と拒否して、代々木におけるこの明治神宮の森は、そういう木々ではなくて落葉広葉樹のような木、いわゆる鎮守の森にある木々の種類がいいとつくられて、見事に成功したという例です。

予定よりも早くという意味は、いわゆる自然林になるのに多分100年以上はかかるだろうと言われていたものが、80年目ぐらいでほぼその形ができたと言われておりますが、予定よりも早くそういう形ができたということです。

宗像の今後の取り組み

宗像におけるこれからの取り組みについてです。我々はどういうものを目指しているんだとよく聞かれるんですが、私どもは神々がすむ海、神が鎮まる海、こんな海を確実に取り戻そうという取り組みを行っていくことで、関係者の間で合意しております。このことはなかなか分かりにくいかもしれませんが、このことは地元の連中、私も含めて仲間たちとは共

有できています。神々しいというか神々しい海を取り戻すんだと、現在、地道な活動ではありますが、いろいろな活動を通じて宗像の海を再生しています。

また先ほどの「常若」ですが、自然の摂理と生命の循環をもってきちっと再生をしていけば、その神々しさというか、神々しさが生まれるのではないかと信じて、日頃から私どもの活動をしています。

この環境問題への取り組みについては、いろいろなことを言われますけれども、私なりにこれが本質ではないかと思って、日経BPの「プラスチック「革命」」という本に少し書かせていただきました。少しだけ紹介させていただきます。

「つまり、環境問題は人々の物欲によるものであり、それは時間を単純に戻せば解決できるのだが、多くの人は一旦手にしたものは手放したくない。あの時代には戻りたくないとなる。しかし、地球は人類が消滅すれば元に戻るのだが、人々は諦めきれない。これこそ環境問題の本質でもある」と書かせていただいています。

まさに人間の欲と自然との関係性が今の環境問題を引き起して、このことをどこまで追及できるかはこれから大きく関わってくるのではないかと思います。

最後に、いつの時代まで巻き戻せば日本の自然は戻るのだろうかですが、先ほどの伊勢神宮の宮域林、それから明治神宮の森は大正時代に形成をされていますが、どうやら大正時代辺りまでは日本というのは自然に恵まれていたのではないかと思います。

アインシュタインが日本に来たのが大正11年ですが、その際にアインシュタインが残している言葉がたくさんあります。それらの中の一部を紹介させていただきます。

「日本では、自然と人間は、一体化しているように見えます。この国に由来するすべてのものは、愛らしく、朗らかであり、自然を通じて与えられたものと密接に結びついています。日本人は、西洋の知的業績に感嘆し、成功と大きな理想主義を掲げて、科学に飛び込んでいます。けれどもそういう場合に、西洋と出会う以前に日本人が本来もっていた、つまり生活の芸術化、個人に必要な謙虚さと質素さ、日本人の純粋で静かな心、それらのすべてを純粋に保って、忘れずにいてほしいものです」と、アインシュタインが日本をこのように表現しています。

大正時代というのは今から100年ぐらい前の話になるかと思いますが、それくらいまでの時間を取り戻すことができれば、恐らくかなり自然は甦ってく

るのではと思っています。

この辺りで私の話を閉じさせていただいて、何か御質問等があれば受けさせていただきたいなと思います。どうぞよろしくお願いします。

質問 お話をお伺いして、一つ質問させていただきます。宗像大社には8万点の国宝があるということをお聞きしましたが、その保管というのは宗像大社の方でなされているんですか。それとも九州国立博物館とか、そういうところにもあるんでしょうか。

葦津 宗像大社には博物館があって、そこに保管をしております。神宝館という名前になっておりますが、約8万点の国宝の一部が御覧いただけるところでございます。先ほどもちょっと御説明しましたが、矛盾ですね、それをそこで展示をしております。

それから宗像大社には、一木一草一石たりとも沖ノ島から持ち出しちゃいけないという禁忌があるんです。にもかかわらず、何で宗像大社に8万点の国宝があるんだということなんです。

実は、その禁忌はずっと守られてきました。戦後、宗像大社だけではないんですが、どこの神社も疲弊をしていくんです。宗像大社は大変な状況下にあったんですが、その状況を見て、宗像出身の出光興産の創業者である出光佐三さんが、ぜひ沖ノ島にあるものを発掘したらどうだという大英断をなされます。その際、約10万点の品々を沖ノ島から持ち出したとされておりまして、そのうち整理をされた8万点が国宝に指定されております。

ただし、そのときにもやはり配慮があって、表面採取といって掘ってないんですよ。表にあるものだけを集めて約10万点なんです。実はほとんどの御神宝は土の中にあると思います。今でも沖ノ島行くと土の中からいろいろな御神宝が頭を出しております。掘ればまだ出るはずですが、私は掘らないと言っております。実は、当時いろいろ発掘に関わった方々は結構早死にをして亡くなられていますので、罰が当たると思っております。

8万点の国宝そのものがまだ子細に解明されていない状態ですので、当然、掘る必要もないわけですし、8万点の整理も未だ終わってないので、僕は永遠に掘らないほうがいいと思うんです。

何で埋まっているかという、伊勢神宮でも国宝に類するようなものを20年に1回、人間国宝の人たちにいろいろな品々を作ってもらうんですが、伊勢神宮の御神宝も数多くあるんですが、20年の役目を

終わるとあと20年間寝かせます。40年後に、江戸時代までは土の中に埋めていたんですね。明治になって、明治天皇から、技術を伝承するために残したほうがいいということで、明治以降、土に埋めていないんです。

だから、昔は神様の物は人目に触れることなく土の中に埋められていたという例からとって、沖ノ島の地の底には相当なものがあるだろうなと思っております。

質問 沖ノ島は確か神職の方しか行けないと聞いていますが、先ほどごみを拾いに行くような人たちは、一応神職の立場として何か特別なものを与えて渡られるのでしょうか。

葦津 沖ノ島に何で渡れないんだとよく言われます。女性の方からも、女性は行けないんですねとか、いろいろ言われます。

世界遺産になったときに、実は一般の人はもう入れないようにしました。それまでは日本海海戦記念日に約200名の人を限定で沖ノ島に渡らせていました。それはなぜかという、沖ノ島の沖合でバルチック艦隊との一戦があって、その海戦記念日は福岡にとっていろいろな意義があるということで、いろいろな行事がなされているんです。司馬遼太郎氏の作品の中にも出てきますし、当時、宗像の神主がそこにもいたわけですが、その日誌なんかも残っております。

そういう意味で日本海海戦記念の日に島の方に渡していたんですが、私、見ていて、やはり200名の人を一気に島の中に入れると島が傷むんですね。それはもう前から気になっていて、世界遺産の登録と同時に、あそこはもう元に戻そうということで、神職以外は島の方に渡さないことになりました。ただし、メディアは一部入れるようにしてあります。それはなぜかと申しますと、神主が変な管理をしていたらいけないのでチェックをしてもらう意味で、きちっとした番組しか入れませんが、特別に入れることにしています。

それと、先ほどの御質問のごみを拾う部分については、基本、氏子青年会といまして、宗像大社に氏子の青年の組織があって、その氏子の青年を中心に声をかけまして、ボランティアで船に乗ってくださるかということで、基本、現在そういう形を踏襲しているところです。

次世代税理士 & MJS 交流会

令和7年8月7日(木)にMJS福岡支社にて「次世代税理士 & MJS 交流会」が開催されました。本交流会は、若手税理士や事務所の次世代を担うメンバーが気軽に情報交換・交流が出来る場として、MJS 関係者も交えて今後の業界発展やネットワーク強化を目指す目的をもって企画されました。当日は、福岡、北九州、佐賀、熊本から8名の先生方、またMJSからも6名の参加を頂きました。

まずは、笹田会長から交流会発足の経緯、会の趣旨、ミロク会計人会の概要と活動内容そして今後の展望についての説明がなされました。その後、参加者に自己紹介を行い、事務所の規模や業務内容、趣味、現在の課題や今後の展望などを共有しました。独立開業の経緯や家業の承継、監査法人の勤務経験、個人事務所から大規模事務所など様々な背景があり、多様な事務所運営の現状や課題を理解することが出来ました。



次に、「税理士業界の人材不足や業務効率化の課題」として、人材の高齢化、若手職員の定着難、業務効率化の必要性について意見交換したところ、AIやDX、クラウド、AI-OCRなどの新技術への関心が高く、少人数事務所における効率化や在宅勤務の導入等、業務自動化への期待が多く語られました。さらにMJSからも現状のシステム活用状況や今後の機能拡張、他社ソフトとの連携、コストやセキュリティの課題について具体的な説明を頂き、有益な意見交換を行うことが出来ました。

その後の懇親会も大変盛り上がり、とても有意義な一日でした。皆様方にはご参加いただき有難うございました。

(情報ネットワーク委員長 草野 恒史)

情報ネットワーク委員会

事務所見学会を開催



令和7年7月16日(水)、情報ネットワーク委員会の事務所見学会を野田税理士事務所(福岡市中央区薬院)において開催しました。

最初に、草野委員長から情報ネットワーク委員会の活動内容や事務所見学会を行う目的等が説明されました。

続いて、野田昇宏所長から事務所の概況や課題等について説明された後、野田耀平先生から事務所で業務改善として取り組んでいる内容について詳細な説明がございました。

- ① メール会計やMJS データセンターを活用し、スムーズに顧問先とのデータのやり取り

- ② iCompass コミュニケーションやiCompass リモート PC2 を使って、問い合わせ対応・テレワークを促進
- ③ AI-OCR 入力、AI 仕訳、通帳コピーの紙データのテキスト化による CSV 取り込みを利用し、入力業務を省力化
- ④ 紙媒体の削減や所内での顧問先情報を共有するために、DocuWorks を活用した電子化等
- ⑤ 所内のセキュリティ対策やデータバックアップ体制

さらに、現在はAIを駆使して、所内会議の議事録作成や決算書と内訳書の数値チェックをさせるなどの業務効率化も構築中とのことで、大変興味深い話を聞くことができました。私の事務所は全くのアナログな事務所ですが、今日を機会にまずは一つでも取り組んでいこうと思いました。その後は、近くの飲食店で懇親会が行われ、大いに盛り上がりました。



(情報ネットワーク委員会 中山 淳)

北九州地区会 北九州地区会定期総会を開催

新会長に青山洋平会員が就任



令和7年7月10日（木）アートホテル小倉ニュータガワにて、北九州地区会の定期総会が開催されました。

原田知代子理事司会の下、佐藤亮治理事が議長に選任され各議案の審議に入りました。各議案について、和気あいあいとした雰囲気の中での慎重審議の結果、全ての議案が満場一致で可決承認さ

れ、来賓の九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏からご祝辞もいただき、総会は滞りなく無事終了となりました。

昨年は旧門司三井倶楽部、今年はニュータガワと一人でも多くの会員事務所様に参加してもらえようと、地区会事務局の皆様が知恵を絞り工夫してくださいましたおかげで、多くのご参加をいただき懇親会も楽しいひと時となりました。

なお、諸事情により任期途中での地区会会長バトンタッチが行われ、新しい北九州地区会会長が誕生しました。新会長には青山洋平会員が就任され、「ミロクユーザーになったら、会計人会に入らな損!!」と思われるくらい益々活発な地区会活動になるよう、会員一同で新会長を盛り上げていきましょう。引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（北九州地区会 小林 弘和）

佐賀地区会 定期総会・懇親会を開催

笑顔あふれる懇親会

令和7年6月27日（金）武雄市の湯本荘東洋館において、令和6年度九州ミロク会計人会佐賀地区会定期総会が開催されました。総会は吉村耕輔会長が議長となり以下の議案の説明と報告が行われ、審議の結果、全会一致で承認可決されています。

- 第1号議案 令和6年度事業活動及び収支報告の件
- 第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算（案）の件

吉村会長より予算のレクリエーションの内容を検討中との話で楽しみにしています。

決議終了後は、第49回全国統一研修会せとうち広島大会について案内がされ、その後MJS九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏より「ミロク会計人会×MJS協賛企画」の話などがありました。その際にサイバーセキュリティ対策の案内があり、実情として福岡においてもランサムウェアの被害が発生していること、福岡支社がその対処に



当たられたことが紹介されました。バックアップから無事復元できたとのことでしたが被害を防ぐことの難しさと、MJSのリカバリーサービスの有難みがわかる話でもありました。

定期総会終了後は同じ湯本荘東洋館において懇親会が開催され、九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏の乾杯の発声で始まり、美味しい食事に舌鼓を打ちながら笑顔あふれる懇親会となりました。最後は西村宰九州北部税理士会副会長による締めで和やかなうちに会は終了しました。

（佐賀地区会 石丸 新一郎）

福岡地区会

福岡地区会定期総会を開催

全会一致で承認可決



令和7年7月17日（木）午前11時より、福岡地区会定期総会がソラリア西鉄ホテル福岡において開催されました。

総会は川野秀明総務委員長の司会により始まりました。当日は九州ミロク会計人会の正副会長・委員長会と開催時間が重なったため、開会の辞も川野総務委員長が行い、物故会員に黙とうを捧げました。続いて東泰三会長の挨拶、議長選出に入り古賀一生会員が選ばれ、議事録署名人には木下

淳子会員と柴田佐右里会員が指名され、議案審議に入りました。

議案1 令和6年度事業報告及び承認について

議案2 令和6年度決算報告及び承認について

川野総務委員長より事業報告、行時智子財務担当総務委員より決算報告、柳武清吉監事より監査報告が行われ、審議の結果承認可決されました。

議案3 令和7年度事業計画及び予算案承認について

川野総務委員長及び行時財務担当総務委員よりそれぞれ説明があり、審議の結果承認可決されました。以上で議案審議は終了し、議長が降壇しました。

次に報告事項として、川野総務委員長より令和7年度研修事業について説明が行われました。

その後、来賓の九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏の祝辞、祝電が披露され、川野総務委員長の閉会の辞で総会は無事終了しました。

（福岡地区会 鉄川 さえ子）

プロ野球観戦

連覇を目指して

令和7年9月17日（水）福岡地区会はみずほPayPayドームでのプロ野球福岡ソフトバンクホークス対埼玉西武ライオンズ戦を観戦しました。ドーム5階のJALスカイビューシートにMJSのスタッフを含めて約80名の参加がありました。

今年は故障者が多く前半は出遅れていましたが、代わりの若手選手の活躍が光り、次第に巻き



返す展開に、当日には優勝マジック11が点灯していました。試合は先発のモイネロ投手がホームランを打たれ先制されましたが、2回の裏に打線が爆発し一挙7点を入れて、逆転しました。その後も追加点が入り、余裕の応援となりました。

ピュッフエスタイルの食事とアルコールも入り、楽しい観戦となりましたが、打ちすぎて長い試合となり、7回終了後には大半の参加者が帰宅しました。

昨年は日本シリーズで敗れ残念でしたが、今年こそ日本一を目指して頑張してほしいものです。

（福岡地区会 空閑 秀樹）

筑後地区会 定期総会・研修会・懇親会を開催

業務に活かせる研修内容



今年は6月末に観測史上最速の梅雨明けを迎え猛暑が続くなか、令和7年7月14日（月）ハイネスホテル久留米において、筑後地区会第36回定期総会が開催されました。

総会は、香月監事が司会を務め、香月監事の開会の辞で開会、長谷会長の挨拶、九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏の来賓挨拶を経て、長谷会長が議長に選出され議事に入りました。会長が第1号議案「令和6年度事業報告及び収支決算書承認の件」について説明後、石橋監事による監査報告がなされ、原案通り承認可決されました。続いて第2号議案「令和7年度事業計画及び収支予算案承

認の件」について会長から説明があり、審議の結果承認可決されました。事業計画では、九州ミロク会計人会の研修事業見直しにより、筑後地区での研修会開催は1回になったことの説明がありました。次に第3号議案では、第49回全国統一研修会せとうち広島大会の案内があり、多くの筑後地区会員で参加することを確認し、森副会長の閉会の辞をもって総会は閉会しました。

第2部研修会は、13:30から「法人課税の誤りやすい点について【2】」と題しまして税理士の植田卓先生からご講義をいただきました。令和6年に改正された日本産業分類に基づく耐用年数や同額増減資を行った場合の資本金等の額など実務的に直結したテーマで大変参考になりました。植田連合会会長には、各会計人会総会で全国を飛び回られ超ご多忙のなか筑後に来ていただき感謝の念に堪えません。

第3部懇親会は、同ホテルにて、植田先生、九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏をご来賓として迎え、田辺会員の司会進行により和気藹々と様々な話題で盛り上がりしました。

（筑後地区会 長谷 広信）

長崎地区会 第37回定期総会・懇親会を開催

事業計画で充実した内容の報告

令和7年7月7日（月）サンプリエールにて長崎地区会の第37回定期総会が開催されました。

定期総会は、会員17名の出席を得て、草野恒史会長の挨拶に続き、議長に雪澤知之会員が指名され、令和6年度事業報告及び決算報告、令和7年度事業計画案及び収支予算案について審議され原案通り異議なく承認されました。

令和7年度事業計画では、第50回九州ミロク会計人会定期総会及び第49回全国統一研修会・せとうち広島大会ほか、各委員会からは認定研修の開催やシステム改善要望の提案、会員及び職員の親睦旅行やボウリング大会など充実した内容の報告がありました。

総会終了後は、同ホテルにて、日本政策金融公



庫長崎支店、大同生命保険、ミロク情報サービスからご来賓の方々をお招きしての懇親会が催されました。

とても和やかな雰囲気出席者相互の交流を深める盛況な懇親会となりました。

（長崎地区会 川上 正文）

大分地区会

第23回定期総会・懇親会を開催

事例を交えて分かりやすく解説



令和7年7月7日（月）と何やら縁起が良さそうな暦の下、大分市のJ：COM ホルトホール大分で大分地区会の第23回定期総会が開催されました。

定期総会に先立ち、毎年おんせん県おおいたを訪れるのを楽しみにして頂いているMJS 税経システム研究所客員研究員で税理士の石井幸子先生による「ミス事例から学ぶ消費税実務の落とし穴」の記念講演が行われ、会場13名、Web19名の総勢32名の大分地区会会員が受講しました。小さなミスが大きな賠償に直結することもある税目

と内容だけに、受講者は皆、真剣に聞き入っていました。

講演終了後、第23回大分地区会定期総会が開催され、衛藤勉会員が司会を務める中、泉比呂志会長が議長に選任され、梶原康弘会員による令和6年度事業報告及び決算報告の後、山崎雄三会員による監査報告が行われ、慎重審議の上、議案通り承認されました。続いて、梶原康弘会員から令和7年度の事業計画案及び予算案についての説明があり、こちらも無事承認されました。

定期総会終了後には、場所をアートホテル大分に移して、懇親会が行われました。昨年に続いて記念講演会の講師を務めて頂いた石井幸子先生をはじめ6名のご来賓にもご参加を頂き、総勢39名参加の懇親会は、盛会のうちに終了しました。



（大分地区会 芦刈 太一郎）

ボウリング大会

なんとか踏ん張り逆転！

酷暑が続く令和7年8月22日（金）、大分地区会恒例のボウリング大会がタワーボウル萩原店にて開催されました。今年も泉会長をはじめ多くの参加者が集まり、笑顔と歓声に包まれた一日となりました。

今年は8月の開催となり、私は申告の作業に後ろ髪を引かれながらも参加。しかし、やるか

らには優勝あるのみ！と密かに闘志を燃やしてゲームスタート。

初心者からベテランさらにはお子さんまで、幅広い層が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中でゲームが進行しました。ストライクが出るたびに拍手が起こり、ミスショットにも笑いがこぼれるなど、終始和やかなムードでした。

さて、大会の内容のほうは、第一ゲームでは、MJS 安部さんのターキー（3回連続ストライク）！による大まくりでトップとなるも2位以下も大混戦でした。

第二ゲームになると、日頃の運動不足もあってか一人また一人と脱落。そんな中、私はなんとか踏ん張り逆転！ハンデの関係で優勝は逃しましたが、グロスではトップとなり赤川賞までいただき大満足！そして、副賞であるこの原稿を現在書いております。（笑）

来年もまた、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごせることを楽しみにしています。

（大分地区会 後藤 大祐）



熊本地区会

研修会・定期総会・懇親会を開催

ゆっくりでも 止まらなければ けっこう進む



令和7年6月6日（金）KKR ホテル熊本で開催された熊本地区会の研修会、定期総会及び懇親会をレポートします。

<研修会> テーマは「NX-Pro の上手な使い方」です。「おっ！」が詰まった充実の内容でした。すぐに使ってみます。

<定期総会> 我らが碓塚絵理子会長の「これが

らはAIの時代であるが、親兄弟、友人、上司、先輩、同僚等に言葉で相談することは大事、この会計人会は人と人の出会いを大切にしたい。」という人間味溢れるスピーチから始まりました。そして、すべての議案がスムーズに承認可決されました。熊本地区会は一歩一歩前進していくのです。

<懇親会> 原田貴啓支社長の普段の行いが良すぎるのか、総会時より明らかに参加人数が増えています。社員の皆さんの動きも素晴らしく、楽しい会話とともにつつい杯も進み、大いに盛り上がった宴となりました。

<まとめ> 会員の皆様の様々な思いを感じることができた一日でした。「ゆっくりでも 止まらなければ けっこう進む」という言葉を思い出しつつ、星に感謝しながら家路に着いたのでした。

（熊本地区会 虎谷 信吾）

鹿児島地区会

定期総会・懇親会を開催

天候に恵まれた総会

令和7年6月13日（金）鹿児島市内の「味の八坂」において、鹿児島地区会定期総会が開催されました。前日までの大隅地区には梅雨の大雨による大雨警報が出ており、また、桜島の山体膨張による噴火情報などもある中、天候が心配されましたけれども当日は大雨警報解除、桜島も落ち着いてきており天候に恵まれた総会となりました。

総会は第1号議案から第4号議案が審議され、すべての議案が承認されました。その他の案件としてMJS鹿児島支社の担当者から紹介サンクス



キャンペーン、MJSソリューションフェアについて説明があり、その後ご来賓を代表して九州沖縄圏統括部長 高木紀彦氏からご挨拶をいただき無事終了しました。

出席者全員喉が乾いているということで早速懇親会に移り、乾杯の後は、来賓として出席いただいたNN生命保険、日本生命保険、大同生命保険の方々と名刺交換を交えながら、楽しい時間を過ごすことができました

その後は、当然のことながら一部の面々は二次会の店へ繰り出していき、更なる親交を深めた良か晩となりました。

（鹿児島地区会 七村 義見）

8月上旬、システム開発委員会の会議が北海道の網走で行われるということを聞き、委員会のご厚意でゲスト参加させていただきました。

女満別空港に降り立った日は、北見市で予想最高気温が40度を超えるという日と近く、想像をはるかに超えるほどの暑さで、とても「北海道らしい」とは言えない気候でした。しかしながら、風景はまさに北海道。広い大地に大きな湖、見渡す限り緑にあふれ車窓からの眺めは素晴らしいものでした。

2日目、知床半島へのクルーズに出かけ、ヒグマの生息地として名高い「ルシャ湾」まで船を進めました。そこで運よく親子のヒグマに遭遇することができました。

その後、知床連山を背景に、原生林の中に5つの神秘的な湖がある知床五湖へ。

ここでは、地上遊歩道散策を楽しめますが、歩く前に「歩き方」や「ヒグマと遭遇した場合の対処方法」について受講しなければなりません。鈴を鳴らし、会話をしながら慎重に遊歩道を歩きました。

近年は、ヒグマに関するニュースが毎日のように報じられています。

網走・知床の旅



ヒグマを保護しつつ人々の安全を守るためには、双方の活動エリアを明確に分けることが重要とされています。

しかし、ニュース映像には、ヒグマの至近距離に車を止めてスマホやカメラで撮影する人々や、車の窓から平気で食べ物を投げ与える人々の姿もあり、人間とヒグマの距離感が変わってきてるように思われます。

ヒグマと出会わないようにすること、そして引き寄せないようにすること。それが、人とヒグマが共存していくために欠かせない姿勢だと感じました。

ほんのひとつきでしたが、網走・知床の自然に触れ、その雄大さと同時に「自然を守ることの難しさ」を強く実感しました。

◆熊本地区会
礎塚絵理子

編集後記

ちょっと以前に、望まずして後期高齢者の仲間に入り、止む無く、日々、`老化との戦い、を続けているが、今夏の40度超えに象徴される猛暑には多少参ってしまった。

自身の長年の健康法として、「1日1万歩の歩行」と「早朝の木剣振り」を30年来続けているが、加齢と近時の異常気象とに正面から向き合いつつ、これらをどこまで続けられるかを秘かに心配している。

先輩方から、「仕事を続け、日々他者と交わることが、何よりの健康法である」との教えを頂いているが、今後とも、あまり多くはないであろう残された日々を、周りに迷惑をかけることなく、メリハリのある充実した時間消化法に心掛け、一歩ずつ歩みを進めていければと考えているところである。

(熊本地区会 下田 憲幸)

令和7年11月以降認定研修開催予定のご案内

申込方法

MJS のホームページよりお申込みください。

MJSホームページ
セミナー検索 QRコード



- * 全てハイブリッド開催で、会場受講とWeb受講の選択ができます。
- * 開催1～2ヶ月前にホームページへ掲載いたします。
- ① MJSホームページ(<http://www.mjs.co.jp/seminar>)の『セミナー検索』あるいは右記のQRコードからお申込みください。
- ご不明な点はお問い合わせください。(事務局電話番号:092-481-3285)
- ② 申込みページで、氏名、メールアドレス等必要事項を入力します。
- ③ 受付完了のメールが送付されて完了です。

※受付完了メールが届かない場合は、メールアドレスをご確認の上再度お申し込みください。

主催：九州ミロク会計人会

※九州北部税理士会・南九州税理士会認定申請予定
※日本FP協会継続教育単位認定申請予定

	開催場所 (形式)	日時	認定 時間	行事内容	講師等
1	Web 研修 & 来場型 開催地：福岡市	11月18日(火) 13:30~16:30	3 概要	令和7年分年末調整と令和8年からの給与計算 ～103万円の壁の引上げにより実務はこう変わる～ 給与所得者は、給与所得控除の最低保障額と基礎控除額が引き上げられ、所得税の課税最低限が160万円となりました。この見直しに伴い、所得控除について、特定親族特別控除が創設されるとともに、同一生計配偶者・扶養親族などの所得金額要件も引き上げられました。 上記改正は令和7年分年末調整から実施しますが、給与計算については令和8年1月から「給与所得の源泉徴収税額表」などが変更されます。改訂された年末調整関係書類やそのほかの改正点も踏まえて、具体的事例により解説いたします。	税理士 長野 匡司 氏 MJS 税経システム研究所 客員研究員 長野匡司税理士事務所 所長
2	Web 研修 & 来場型 開催地：佐賀市	12月5日(金) 13:30~16:30	3 概要	消費税における届出実務の再確認 ～最重要な届出書の取扱いを重点チェック～ 課税事業者選択届出書や簡易課税制度選択不適用届出書等の提出失念による訴訟事件が、全税法の訴訟事件中、毎年のように上位を占めます。そのような失敗をおささないためにも、消費税における届出実務の基本を知り、そして危険なシチュエーションをあらかじめ理解しておく必要があるのです。また、インボイス制度における登録申請実務についても、ミスが増えています。やはり、スタンダードな知識として、ここも理解しておく必要があるのではないのでしょうか。そこで、本セミナーでは、インボイス制度の内容も踏まえ、届出書、申請書に関する事項を中心に実務上の実践的な取扱いを確認していきます。	税理士 渡辺 章 氏 MJS 税経システム研究所 客員研究員 渡辺章税理士事務所 所長
3	Web 研修 & 来場型 開催地：福岡市	12月9日(火) 13:30~16:30	3 概要	土地評価の実務 基礎編 本研修では、相続税・贈与税の土地評価に欠かせない事前調査に焦点を当て、机上調査・役所調査・現地調査の3つの調査方法を具体的に解説します。 精度の高い評価を行うためには、適切な資料収集・整理・分析が不可欠です。名寄帳や路線価図などの基本資料にも見落としがちな重要情報が含まれており、研修では評価に役立つ各種資料の活用方法を事例とともに紹介します。 また、実務で誤りやすい論点を取り上げ、現場で即活用できるスキルの習得を目指します。 内容は基礎から応用まで幅広くカバーしており、これから土地評価に携わる方はもちろん、経験者にとっても新たな発見のあるプログラムです。	不動産鑑定士 小路 恵介 氏 株式会社エミナス鑑定
4	Web 研修 & 来場型 開催地：福岡市	令和8年 1月16日(金) 13:30~16:30	3 概要	令和7年分所得税確定申告のチェックポイント ★後日、1週間のアーカイブ配信を予定★ この時期、MJS 毎年恒例の「確定申告のチェックポイント」解説セミナーです。本セミナーでは、申告業務の基本から誤りやすい事例までを整理し、効率的に申告を進めるためのポイントを解説します。初めて確定申告を行う初心者の職員の皆様から、「もう一度ポイントを確認しておきたい」という所長先生まで、ふるってご参加ください。	税理士 竹内 秀男 氏 MJS 税経システム研究所 客員研究員 税理士法人 竹内会計 代表社員
5	Web 研修 & 来場型 開催地：福岡市	令和8年 3月26日(木) 10:30~16:30	5 概要	会社の合併・分割をめぐる税務処理 (会社法、会計処理とともに) 法人税法は、会社の合併・分割などの組織再編成に対して、適格・非適格の考え方を基盤に置き、単に、組織再編成が行われた際の課税関係だけに止まらず、組織再編成後における事業年度の所得計算にも影響を与えています。さらに、会社の組織再編成は、あくまで会社法の規定に基づいて実施されなければなりませんから、会社法の規定についても確認しておかなければなりませんし、組織再編成に関する会計処理についても確認が必要です。 今回のセミナーでは、組織再編成のうち合併と分割を中心に、税務処理を確実に理解したうえで、併せて会社法・会計処理についての確認も行います。	税理士 植田 卓 氏 MJS 税経システム研究所 顧問 植田会計事務所 所長

■税理士会認定は各税理士会での判断により、認定されない場合もございます。

■Web 受講はインターネット環境が必須となります。WEB 会議システム「Zoom」を使用いたします。

■税理士会会員および税理士会会員事務所の職員の方でしたら、どなたでも受講できます。